

●前年度の取組及び本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<p>○調理実習等、グループで協力して計画～振り返りまで行うことができる。</p> <p>○学習への関心は高く、特に実技・実習には意欲的に取り組める。</p>	<p>○家庭環境や経験の差による個人差が大きい。</p> <p>○家族の一員として家庭の仕事を担い、より良い家庭生活にしていこうとする意識が育っている児童は多くない。学習を家庭生活に生かせていないことが多い。</p>

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
5年生	<p>○新しく習うことへの関心は高く、学習意欲がある。</p> <p>○玉止め・玉むすび種々の縫い方などこつこつと練習することはあまり好きではない。</p> <p>○教えあったり、一緒にがんばったりすることは得意ではないが、個々の仕事を分担してチームとして協力することができる。</p>	<p>○練習検定カード等を用いて自分の練習の成果が分かるようにする。</p> <p>○ペア(もしくは3人)学習を取り入れ、教え合う。</p> <p>○練習しながら作品が完成する単元構成にし、最終的に出来上がる作品見本を用意するなど見通しをもちやすくする。</p>
6年生	<p>○教科への関心・意欲は高く、教わったことを一生懸命やろうとする。</p> <p>○家庭生活での経験の差が大きい(特に調理面)</p> <p>○知識の定着が不十分だったり、あいまいさの残る児童も多い。</p>	<p>○安全ルールや使い方、ミシン、包丁などの既習事項の確認をしながら進めていく。</p> <p>○授業で習ったことを家庭で生かす家庭実践の機会が持てるようにする。</p> <p>○工夫する視点や例を提示する。</p>

●学校全体で取り組む内容

<p>○作品や家庭実践の発表の場を設け、自分の成長を確認したり、友達のがんばりや工夫を知り認めあう機会をもつ。</p> <p>○家族のために役立ったという自己肯定感をもたせる視点での活動を取り入れる。</p> <p>○家庭でのコミュニケーションを促し、認められることで肯定感を高める。</p>
